

講演

「地方経済の展望は in 富士見」



講師 伊藤 洋一氏
(諏訪市出身)
経済評論家
住信基礎研究所 主席研究員
諏訪清陵高等学校卒業
早稲田大学政治経済学部卒業

—— 講演要旨 ——

今の経済低迷は、人口の減少が原因である。同じような現象は日本でも歴史の中で起きており、その時に現在の「特産品」と言われるものが智慧を絞って生まれてきた。富士見にしかない特産品を作る必要がある。

また、江戸時代は、「富山の薬売り」のように、商人が御用聞きをして商売をしていた。それが時代と共に客を店に出向かせる形態に変わった。これからは、家にいてネットで物を買うのが主流になっていこう。販路への対応も重要な要素である。



はマクロ的な考えが必要。
A：地域で当たり前のことが宝であることに気づくことが大切。
ブルーベリーと富士見はとてもマッチしているので、癒しの里のような考え方がいいと思う。
A：町では農業を基幹産業として、就農希望者にパッケージ農業を勧めている。
多摩市と共同開設したアンテナショップでも、富士見町の魅力(特産品)・

文化・農業・自然など)を発信していきたい。
A：地方自治の本旨は住民福祉の増進を図ること。パノラマには理事がいてやっているの、議会がいろいろ決められる立場にはない。税金を町の観光協会へ補助するが、その額や内容が妥当かどうか議論することが議会の役割で、その先は観光協会が主体となって進めるべきこと。

A：観光だけでは町は成り立たない。また、観光収入は町の財政のごく一部である。観光を短い期間で好転させることはできない。長いスパンで見えていくことが必要。
※議員会：議員の資質向上、議会活動の活性化を主な目的として町議会議員全11名で結成しています。勉強会の開催、各種研修会への出席、町内イベントへの参加等の活動を行っています。今回初の試みとして「意見交換会」を開催しました。

《その他の主な意見》

- * 初めての企画とのことだが、議会の活動について知る機会となるので、これからも続けてほしい。
- * 大事な水という資源を町のために活用できないか。富士見でも水のエネルギーを小水力発電にいかしてほしい。
- * 伊藤先生の話が終わったら富士見の著名人はみんな帰った。これが議会の意見交換会の現実かと思った。町民も反省すべき。
- * 土日・祝日に定例会を開催することで、より町民に開かれた議会になると考える。富士見でもぜひ実行してほしい。
- * 全協の在り方について、理事者は非公開にしたがる傾向にあるが、それを返してほしい。
- * 町の目標はどこにあるか。将来の展望は議員の皆さんの中にあるか。自問自答して、それを見据え、みんなを引っばって行ってほしい。
- * この会は議員との意見交換がメイン、次は講演会を別として、意見交換会を3時間やってほしい。
- * 議員の皆さんも富士見町を愛して議員になったことと思う。景観推進協議会の景観賞に1点でも応募してほしい。
- * 報告会を子ども(小・中・高生)を対象としてやってみてはどうか。富士見で何が大切か、見えてきそう。